

発 刊 に 寄 せ て

後志教育研修センター

所長 和田 徳 夫

後志教育研修センターでは、教育研究所の時代から今日の教育に求められる課題を追求する調査研究事業を推進してきているという歴史があります。町村から選ばれた所員が研究委員会を組織して研究を推進し、管内教育向上の一翼を担ってきているという歩みがあります。この度、3年計画の1年目のまとめとして、この紀要を発刊されますことに際し、所員の皆様に心より感謝と敬意を表します。

さて、研修センターの調査研究事業について学校教育に関しては、学習指導委員会、校内研修委員会の2つの委員会を設置して取り組みました。校内研究委員会については、道研連との関連で設置しました。

学習指導委員会では研究主題「自ら考え、伝え合う力を育む学習指導の工夫」を掲げ、サブタイトル～学校で求められている言語活動の充実を目指して～を中心に研究に取り組んでおります。1年次目は理論研修と多くの検証授業から言語活動の位置づけ、内容の有効性等を明らかにしようとする調査研究内容であります。

また、校内研修に関する研究では、研究主題「実践的な指導力の向上を図る教員研修の在り方」として、校内研修の在り方や校内研修体制の確立を目指し、1年次目は、管内の小中学校における校内研修の実態調査を実施してそれらをまとめ管内の校内研究の実態を浮き彫りにしたものです。

調査研究はこれからも焦点化され深められていくのですが、調査研究の成果がそれぞれの学校でも活用され、深化されていくことがこの研究に携わっている後志教育研修センター所員の願いでもあります。

幸い、今年の8月に第44回後志管内教職員夏季研修会が予定されております。この機会を利用して調査研究事業の報告会も位置づけられました。今まで研究紀要を各学校へ配布することで成果の環流を図ってだけでなく、改めて報告会の場で所員自らが研究の取り組み状況や成果、課題等が全体の中で報告することになっております。多くの先生方が参加し、自校の研究と重ね合わせながら検討していただければと期待しております。

終わりにになりましたが、この研究に当たり数多くの検証授業を提供された先生方、理論と実践を結びつけ、中間報告の形で研究をまとめていただいた研究委員の方々、それを側面から支えていただきました校長先生方、公務多忙の中ご指導いただきました後志教育局指導主事の方々に厚くお礼申し上げ発刊の挨拶といたします。